



SOTOSHU SHUMUCHO

Administrative Headquarters of Soto Zen Buddhism

5-2 Shiba 2 Chome Minato-ku Tokyo 105

Phone 03:3454-5411 Fax 03:3454-5423

1998年5月29日

パキスタン回教共和国首相
ナワズ・シャリフ閣下
駐日パキスタン回教共和国臨時大使
クレシ・ディエス様
東京都港区元麻布2丁目14番9号

日本国宗教法人「曹洞宗」

代表役員 宗務総長

東京都港区芝2丁目5番2号

パキスタン回教共和国政府核実験実施に対する抗議文

- 1, 日本国宗教法人曹洞宗は、すべての核兵器保有国に対してその生産、実験使用の全面的禁止と廃絶を求めます。
- 2, 貴政府が1998年5月28日、西部バルチスタン州において実施した5回の地下核実験に対し、強く抗議すると共に、今後の核実験を全て禁止されるよう要請いたします。

世界の核廃絶への願いは、1970年3月核不拡散条約(NPT)の発効、及び1995年5月11日の無期限延長の決定、更に1996年9月包括的核実験禁止条約(CTBT)の採択等により着実にその歩みが進められてまいりました。しかるに、人類の平和と自然との共生を説く仏教ゆかりの地である貴国が核実験を再開したことは、我々仏教徒をはじめ、全世界に深い失望感を与えたのであります。核兵器廃絶に向かう世界の動向に反し人類の理想達成を遅らせる行為として、絶対に容認できないのであります。

日本国憲法は、宗教と政治は分離することを定めております。この度の貴政府にたいする本宗の抗議は、政治に関与する意図に基づくものではなく、以下に示す曹洞宗の教義に則り、人類全体の福祉向上を願って行うものであります。すなわち、宗教も政治も常に国民や人類の幸福に奉仕するためにあり、政治や軍事がこれに優先するものであってはならないと信ずるからであります。

日本曹洞宗の高祖道元禅師は、歴史上世界有数の思想家であり、禅の偉大な指導者であります。道元禅師は、その著述『正法眼蔵』に次のような考えを示しています。

「草木叢林が無常であり、かたときも生命のいとなみをとめないところに、仏がしめ



SOTOSHU SHUMUCHO

Administrative Headquarters of Soto Zen Buddhism

5-2 Shiba 2 Chome Minato-ku Tokyo 105

Phone 03:3454-5411 Fax 03:3454-5423

した真実のありようを見る。人の体や心が無常であり、生まれて成長しやがて老いていくところに、仏がしめした真実のありようを見る。国土や山河が無常であり、すがたやかたちを自然の摂理にしたがって変えていくことは、これは仏がしめされた真実そのものだからである。」

この教えはもっとも基本的なものであり、曹洞宗の聖職者や信徒はこのような教えを学び、生命あるものすべてを自分の生命と同様に大切に考え、宇宙環境を汚し痛めることをもっとも戒めてきたのであります。したがって、人為的に物質によって大自然を傷つける行為は、わが生命の安全を脅かすものとして絶対に許すことはできません。

日本曹洞宗は禅の宗教であり、750年前に開宗され現在にいたり、わが国をはじめ、欧米諸国に1000万人の信徒を有する教団であります。もちろん、貴国に巡拝する多くの敬虔な仏教徒がいることもご承知のとおりです。

目下、曹洞宗では21世紀の平和社会の実現をめざし、人権擁護、恒久平和、環境保護の理想を掲げ、多角的に運動を展開中であります。この運動にたいしてもっとも障害となるのが核兵器による破壊行為であり、今後いかなる社会が出現しようとも、このような行為から人類がうるものは絶無であることを確信いたします。また核兵器を保有する限り人類の安寧はありえません。

世界に唯一の核被爆国である日本の願いと、曹洞宗1000万人の聖職者信徒を代表して、貴政府による核実験の即時停止を強く要請いたします。

以上